

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和6年度)

(宛先)岡崎市長

令和7年 2月 25日

団体名 岡崎地方史研究会

代表者 嶋村 博

構成員 135人(※令和7年4月1日時点の構成員数)

団体の目的:団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

岡崎地方の郷土文化を正しく理解し、地域内の各種歴史文化資料を探求かつ保存管理に万全を期し、次代へ継承する奉仕活動を行う。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。
なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどのような活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活動内容
7月17日	市民会館	一般市民 (会員含む)	37 (84)	第10回地域研究講座として「天文16年の竹千代を巡る織田と今川」(講師:中京大学村岡幹生名誉教授)を開催した。
11月14日	市民会館	一般市民 (会員を含む)	27 (62)	第11回地域研究講座として「岡崎城に起きた二つの怪異と関連伝承」(講師:本多葵美子氏)を開催した。

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。<ex.自然環境>

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

前年の公共放送で盛り上がった徳川家康および岡崎城に関する知識に、新しい説や、深掘りしなければ知ることのできない伝承について、専門の研究者が史料を提示して解説したことは、参加者にとってより深い知識を得られるとともに、岡崎城に関する新しい視点を持つことができたと思われる。

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← ⑤ 4 3 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください。

毎年継続してきた講座ではあるが、「どうする家康」のブームが去った後も、独自の視点で一定の参加者を集め開催したこと。

裏面の自己診断チェックリストもご記入ください。